



JICA
開発教育
フォーラム
2023

学校から地球の未来へ 5つのアイデア

アイデア③

未来へつなぐ平和の願い ～ヒロシマからのメッセージ～

2023年度 8月号

今年5月、G7広島サミットが開催されました。平和都市として知られる広島
の学校では、世界の平和に向けてどのような取り組みをしているのでしょうか。
今回は、広島県安芸郡熊野町立熊野第一小学校の中村祐哉先生から、学校で
取り組んでいる平和教育について紹介していただきます。



<執筆者> 中村 祐哉 先生
熊野町立熊野第一小学校 教諭
広島大学大学院 人間社会科学研究科 在学中
2020年度 JICA地球ひろば主催
国際理解教育/開発教育指導者研修 修了 ([授業実践の紹介](#))

単元のねらい

熊野町立熊野第一小学校では、第6学年の総合的な学習の時間に「ヒロシマ人として」という単元を設けています。(指導案は[こちら](#))
ここでは、「広島」と「ヒロシマ」の表記をそれぞれ次のような意味で使っています。

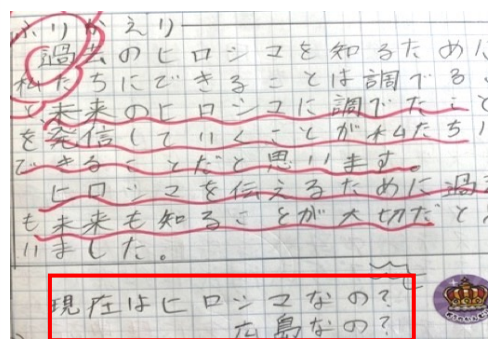
「広島」と「ヒロシマ」の表記について

「広島」
一般的な都市名として使用

「ヒロシマ」
被爆都市として核兵器廃絶と世界永久
平和の実現を目指す都市であることを
意味する場合に使用

広島の子どもたちは、学校や地域の場で原爆投下時の実情について
学びます。子どもたちにとっては、「特別に戦争や平和、原爆投下について
学んでいる」というものではなく、未就学児の段階から自然と見聞きして
きたものです。この単元では、**子どもたちが「今、考えるヒロシマ」や「自ら
が想う平和」について発信できるようになることを目指しています。**

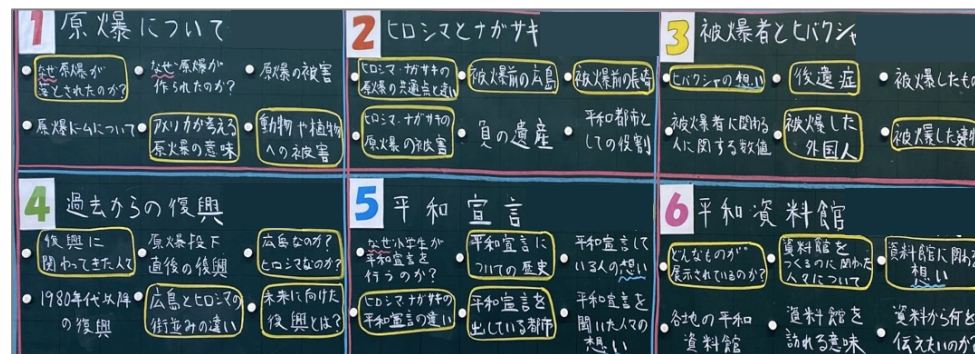
子どもたちが見つけた「問い」への探究



↑課題設定の授業における子どものノートから

導入では、「過去・現在・未来のヒロシマ」という時間軸の視点を子どもたちに示しました。この授業を通して子どもたちは、「**現在はヒロシマなの？(それとも)広島なの？**」という問いから、自分達が住むヒロシマは、被爆から78年経った現在も、核兵器の廃絶と世界平和の実現を目指す都市なのか、ということ考えたのです。

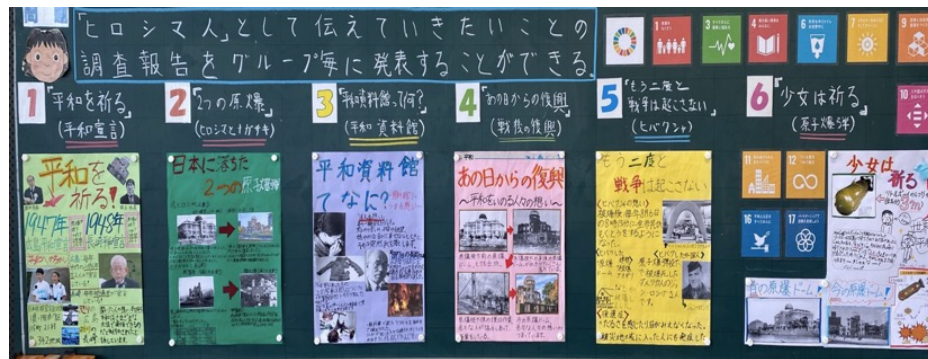
そして、**核兵器の廃絶と世界平和の実現を目指すためには、「過去のヒロシマ」について調査し、発信することが重要だと気付きました。**



↑グループごとのテーマ設定の授業における黒板
子どもたちが伝えていきたい内容ごとにグループに分け、「原爆について」「ヒロシマとナガサキ」「被爆者とヒバクシャ」「過去からの復興」「平和宣言」「平和資料館」の6つのテーマを設定した。

子どもたちは書籍やインターネット、インタビューなどを活用し、グループごとのテーマで調査を行いました。「ヒロシマとナガサキ」のグループでは、平和を願って作られた資料館や碑や像についてヒロシマでは「記念」を使っているが、ナガサキでは「祈念」を使っていることが多いことに気が付きました。平和式典では、広島ではアナウンスや司会を大人がしているけれど、長崎では子どもがしていることに気が付きました。これらのことから、**ヒロシマ・ナガサキは、それぞれの想いや願いをもって原爆の惨状と平和を発信しているということを学びました。**「平和宣言」のグループでは、ヒロシマの平和式典もナガサキが行っている発信のよい点を取り入れてもいいのでは？という提案や、実際に長崎を訪問したいという声がありました。**過去・現在のヒロシマについて学ぶだけではなく、そこに「未来に向けての想い」を発信しようとする姿勢に、子どもたちの大きな変容を感じました。**

この授業では、子どもたちの自発的な「問い」を尊重し、教師が子どもたちに「問わせたい問い」にならないよう、子どもたちの言葉を大切にしました。



↑グループごとの調査内容のポスター

まとめの学習として、JICA中国センターで発表させていただきました。JICA職員の方からは、ご自身の出身地や海外赴任していた国から見た「ヒロシマ」や「平和」についてお話しいただきました。広島の外から見た「ヒロシマ」や「平和」に触れることで、子どもたちは新たな視点を得ることができ、実りのある学びとなりました。



↑「今、想うヒロシマ」について、JICA中国センターで発表を行った。

ヒロシマ人として、未来の広島へ

1年間の学習における、子どもたちの振り返りの中で特に印象的だったものをご紹介します。

「これだけ広島とヒロシマについて考えたことは今までありませんでした。自分たちでたくさん調べて、みんなで意見を出し合いまとめたものをJICAで発表したけれど、本当にこの発表でヒロシマ人として平和について伝え切れたのかは不安です。これからもまだまだ調べて、いつか広島を離れたときにヒロシマ人として発信できるように準備していきたいです。」

「これからもまだまだ調べて準備していきたい」という言葉から、本単元を終えた後も子どもたちの探究は続いていくことを感じることができました。

本年5月には広島でG7サミットが開催されました。「広島でヒロシマが発信される重要性」を強く感じました。日々、刻々と移りゆく世界情勢の中で子どもたちがヒロシマ人としてヒロシマを発信していくことのできる人になってほしいと願っています。

▶ 平和教育に活用できるJICA映像教材
(タイトルをクリックするとYouTube動画に移ります)

- ① [開発途上国支援に人生を捧げた緒方貞子のことば](#)
- ② [広島、長崎での原爆被害、その後の復興取組、世界平和願いの紹介](#)
- ③ [動画で見るJICA地球ひろばの基本展「人間の安全保障」](#)
- ④ [ウガンダ共和国 12年越しの結婚式](#)



未来を担う子どもたちが、ヒロシマと平和について深い思考を巡らせ、ヒロシマ人として発信しようとする姿勢から、地球の未来への希望が見えたように感じます。地球が直面するさまざまな課題を「ジブンゴト」として捉え、教室から世界への平和を考えることは、世界平和への大きな一歩といえるのではないのでしょうか。平和教育に関するJICA教材もぜひご活用ください！